

日産科学振興財団「理科・環境教育助成」成果報告書

研究題目 「生き物が好き 自然が好き そんな自分が だーい好き」

- 目的
- ・学校の生物環境整備のための教材開発
 - ・生命の連続性に対する見方や考え方、生命尊重の心情を育む学習活動計画と実践「5年生 魚や人のたんじょう」を通して

活動状況

平成16年10月 研究助成の決定

平成16年11月～平成17年3月

- ・過去の事例を検証し、次年度の学習活動計画を作成
- ・横浜市教育研究大会で経過報告

平成17年4月～7月

- ・「5年生 魚や人のたんじょう」の授業実践に向けた具体的構想
- ・「5年生 魚や人のたんじょう」についての教材開発
コンクリートパレットを使用したメダカ池の作成
人の胎児についての体感的教材（へその緒体験や羊水実験）
- ・授業実践を伴った研究会（7月）

平成17年8月～11月

- ・実践の検証と神奈川県小学校理科研究大会に向けての資料作成
- ・神奈川県小学校理科研究大会で提案

11月18日（金）13：00～15：00 身近な教材分科会

平成17年12月～平成18年2月

- ・横浜市教育研究大会で提案・報告

2月8日（水）14：30～17：00 生物部会

平成18年 3月 報告書作成

成果と課題（○=成果 □=課題）

- 校内のメダカ池・コンクリートパレット池を整備することで、子どもがメダカとかかわり身近に感じて自分で飼育をしたいという意欲をもつことができた。このような動機付けにより子どもは意欲的に学習することができた。
- 子どもがメダカの卵内の動きに注目できるようにじっくり観察させたあとで、「動く」ことに関連から「自分が産まれる前はどうか」と人の誕生へ関心を向ける展開を行った。「動き」をテーマにした胎児のビデオを視聴し、子どもは「生命の誕生」についての学習課題を自分の意志で選択し主体的に学ぶことができた。
- 植物の学習と関連付けることで、植物・魚・人の生命が同じように連続していることが分かり、生命に対する見方や考え方が深まって生命尊重の心情をもつことができた。
- 「人のたんじょう」では二次資料を活用した学習になりがちなので、実感をとまなう教材や支援のあり方をさらに考えていきたい。

添付資料 横浜市教育研究大会報告資料（6ページ）

（横浜市立岡村小学校 近藤幸信）